

未来へつなげる環境活動支援事業評価委員会 議事録

日時：令和7年5月28日（水） 14：00～15：30
 場所：オンライン及び福岡市役所本庁舎 15 階 1502 会議室
 出席者：評価委員 5名
 申請団体3団体
 事務局5名

<申請事業の評価>

団体活動支援コースBの概要説明および申請団体への質疑応答
 （概要説明5分、質疑応答7分）

1 REPAIR UNION+

発言者	発言内容
委員	職人の方とお客さんとのお金のやりとりはどのようなかたちで行っているのか。
団体	お客さんと直接やりとりを行っている。他には、ジュエリーや家具等当日のやりとりが難しいものについては、後日各職人の店舗にて対応するなど各自で臨機応変に対応している。
委員	お客さんには事前に料金体系は示しているのか。
団体	もちろん示している。お客さんには料金について事前説明を行ったうえで依頼をするかを判断してもらっている。当団体は売上ではなく「お直しに出す」という行動の一步を後押しすることを目的として活動している。活動を見て、他の職人の方からも団体に入りたいという声があっている。
委員	5月18日のイベントには80名の方の参加があったということだが、この数字についてはおおむね予想通りなのか。
団体	毎年行っているイベントであるが、大体200名程度来場するため、今回はかなり少なかった。雨が降っており中止だと思われた可能性が高い。今後雨対策を検討する必要がある。
委員	先日新聞に掲載されていたが、チラシ等と比べて効果はあったか。
団体	一般の方への効果はあまりなかったと感じる。
委員	宣伝を行うツールは多種ある中で、計画を見るとチラシを用いて宣伝されるということだが、配布する範囲はどの程度になるのか。
団体	イベントの近辺を中心として、3,000枚から4,000枚配布している。徒歩でいらっしゃるお客さんもいるため、大体徒歩圏内を想定している。

委員	今回、広報活動にかかる費用を中心に申請されているということによろしかったか。
団体	おっしゃる通り。
委員	今後補助がなくなった場合の広報については何か考えられているか。
団体	代表としてはクラウドファンディングと相性がいいのではないかと考えている。返礼品としてお直しチケットのようなものをお渡ししたりなど今後工夫していきたいと考えているがまだ検討段階である。
委員	リピーターにアピールする広報の方法もあると思うので工夫されるとよいと思う。
団体	お預かりしたものを後日送付するために住所を控えることがあるため、次回開催の案内手紙を送付するなどしている。お客さんのほとんどがリピーターであるため、そのリピーターへのフォローは確かに重要であると感じる。

2 CODOMARE(コドマーレ)

発言者	発言内容
委員	ペットボトルキャップの回収はどのようなかたちで行っているのか。
団体	大きな倉庫と2トントラックを持つメンバーがいるため、イベントの際にペットボトルキャップを回収した後、倉庫にて保管、まとめて持ち込みを行うという流れを想定している。
委員	回収を希望する方はそのイベントに持ち込むしかないのか、それとも他に郵送などは可能なのか。
団体	一定量集めてもらったら引き取りに伺うこともできなくはないが、いろいろなものが混在しているケースが多く分別が大変なため、イベントの際に分別を確認しながら回収するのが一番だと考えている。引き取りの要望があれば検討する。
委員	インバウンド向けの啓発は具体的に何か考えているか。
団体	インバウンドに対しては、イベント形式で行うことで啓蒙することがベストだと考えている。一方的な訴求だけでは難しい部分があるため、展示などイベントの中で楽しみながら環境問題を知ってもらうということを重点的に行っていきたいと考えている。具体的な内容については未定である。
委員	インバウンドへの啓発については方法を工夫しながら進めていってほしい。

委員	SDGsの啓蒙ということだが、最終的にはどのゴールを目指しているのか。
団体	大きな部分は、事業開始から取り組んできた「海の豊かさを守る」というところであり、プラスチックごみの削減にもつながってくると思っている。そこから派生して「まちの豊かさ」や「作る責任使う責任」なども中心に考えていきたいと思う。
委員	イベントの際には目標とするSDGsのゴールを明示されるのか。
団体	SDGsをはっきり打ち出すかという点は検討中である。団体内では、はっきり明示はせず、気づいたらSDGsにつながっていたというかたちでもいいのではないかという意見も出ている。
委員	他団体との協力は検討されているのか。
団体	昨年度も他団体や学校のボランティア部など、一緒に実施してきたため、今年度も他団体と協力し合いながら大きな力にしていきたいと思っている。
委員	目的を同じにしている団体も多くいるため、そういった団体と共働することでさらに目的の達成に近づくとと思う。ぜひ今後も頑張ってもらいたい。

3 鹿垣を守る会

発言者	発言内容
委員	鹿垣は能古島のどのあたりにあるのか。
団体	市内から北にむかって見ると中心を真横に横断している部分。元々は鹿が北側におり、街に降りてこないよう石垣を積み上げ擁壁を作ったものである。
委員	鹿垣を整備することで自然や環境を意識してもらうことは理解できるが、具体的に鹿垣を整える意義は何か。
団体	始めに鹿垣を整備しようと思ったきっかけは実際に森が荒廃してきたことである。その原因は、人が森に入らないことで荒廃した森に気づかないことにあり、森の荒廃（竹害や獣害など）を避けるためには人が森に入ることが必要だと考えた。ただ森に入りましょうというだけでは、なかなか響かないため、歴史遺産として島が誇る鹿垣を綺麗にしようと呼びかけることで市民の協力を煽った。
委員	森を守るということは海を守ることにともなうため、そういった意味も込めて啓発していくということか。
団体	おっしゃる通り。

委員	スタディツアーやフォーラムの参加者は何人を見込んでいるのか。また、参加者は島民の方かそれ以外なのか。
団体	イベントを行う施設に入るのが約 70 名が最大のため、その程度の人数を見込んでいる。対象者については 8 割程度が島外の方である。島内の方はイベントの際にはほぼ参加してもらっていることもあり、比較的鹿垣への理解がある方が多いが、さらに理解を広めていくためには島外の方に知ってもらう必要がある。そのため、両方に案内はするが実際の参加者は 8 割が島外の方である。
委員	島外の方への広報はどのように行われているのか。
団体	SNS 等で発信を行ったり、チラシをまいたり、マスコミに取り上げてもらったりしているが、それらはあまり効果がなく、口コミが一番効果がある。知人を連れてきてもらうことや発信力の方ある方に広めてもらうことで参加者を集めている。
委員	ユンボとは何か。
団体	建設機械である。鹿垣（石垣）の石がかなり重たく、今までは人力で作業を行ってきたが、ハードなため継続して作業を行うことが難しかった。今回安くレンタルができるということで計上している。

未来へつなげる環境活動支援事業評価委員会 議事録

日時：令和7年5月30日（金） 15：00～17：30

場所：福岡市役所 15 階 1503 会議室

出席者：評価委員 5名

申請団体6団体

事務局5名

<申請事業の評価>

団体活動支援コースAのプレゼンテーションおよび申請団体への質疑応答

（概要説明7分、質疑応答7分）

1 藍陽農園みんな

発言者	発言内容
委員	参加者数はどの程度見込まれているのか。
団体	昨年度までの活動をベースに、イベント累計参加者数 200 名を目標にしている。6月に行う田植え体験についてはSNSで呼びかけを行っており、現在 35 名集まっている。その前のイベント（米作りに関する座学）については 25 名程度興味を持っていただいております、合わせて 60 名程度である。
委員	参加者はリピーターが多いのか。新規が多いのか。
団体	ちょうど半数ずつくらいである。定期的に参加してもらいリピーターは大体 10 名から 15 名程度おり、追加で新規の方が 10 名程度となっている。
委員	稲作を行われる方は経験がある方なのか。
団体	団体のメンバーはほとんど初体験だが、地域で以前稲作をされていた方がお亡くなりになってしまったことから手つかずになってしまった土地を、その親族の方（故人と稲作の経験がある方）と一緒に取り組んでいく予定である。また、イベントで農法についての講話を行っていただく方にもサポートいただきながら実施する。
委員	報償費の内訳に挙げられている方々はどういった方なのか。
団体	基本的には講師として、稲作を中心とした内容について教えてもらうことを想定している。具体例としては、農を全般とした座学や米作りに関する講話をしていただく方などを考えている。金額については謝礼基準に準じて計上している。
委員	天候不良の場合、代替となるものは何か考えられているか。

団体	田植えのイベントは難しいが、お話し会についてはフィールドワークと座学で構成されているため、雨天時でも（フィールドワークなしで）座学の内容を増やして実施することを検討している。小雨は決行、雨天は完全に屋外のイベントについては延期での対応を考えている。
委員	天気の良し悪しに関わらず、負担される費用はほとんど変わらないということか。
団体	講師のキャンセルや大きな変更がない場合はほとんど変わらない。
委員	補助金が無くなった後は、どのように活動を継続される予定なのか。
団体	収穫物の販売や加工品の製造を考えている。長期的な展望にはなるが、最終的にはブランド化させていきたいと考えている。
委員	今年度は実施されないのか。
団体	初めての取り組みになるため、米の収穫量等が未知数であることから今年度は同時並行での実施は難しいとは思うが、やってみる。
委員	稲作という新たな視点に目を向けられたことは素晴らしいと思うが、今まで実施してきたことをどう生かすかという点に視点を向けたほうが今後の取り組みに生きていくと思うのでその点検討いただきたい。

2 大濠舞鶴公園パトロール隊

発言者	発言内容
委員	多くの小学生を集めるためにはどのような工夫をされているのか。
団体	小学校や公民館等に直接通い、活動の告知ができないか4年間地道にお願いに行っている。中には、小学校の先生が胸に「LOVE PARK」のバッチを付けてくれ、それを見た生徒が活動に来てくれたこともあった。1件1件回って協力を求めながらチラシを受け取ってもらうという活動を積み上げていった結果である。
委員	インバウンドに対してトイレを清潔に使用することやごみを捨てないように呼び掛けるために、どのような方法を考えているのか。
団体	インバウンドに啓発するには、一方的に注意するだけでは理解してもらえないため、「人の心を思いやりながら環境を良くしていく」という日本人の考え方そのものを理解してもらう必要があると考えている。綺麗な景色だけでなく日本人の心を知ってもらえるよう、「LOVE PARK」というスローガンのHPを作成し、インバウンドへの訴求を行っている。

委員	具体的には観光客がいる場所に行って、QRコード（読み込むとインバウンド向けの地図や情報が掲載されたページにリンクする）が掲載されているチラシを地道に配布されるということか。
団体	おっしゃる通り。加えて、インバウンドのポイ捨てを減らすため、持ち帰りたくなるような絵柄（日本ならではのデザインなど）が掲載されたビニール袋を配布したいと考えている。

3 一般社団法人くらげれんごう

発言者	発言内容
委員	今回新たに絵本を作成されるということだが、どなたが作成されるのか。また、作成するにあたってはできる限り長く使用してもらうようなものになると良いと思うが、どのような内容を考えられているのか。
団体	製作については絵が描ける方に依頼する。また内容については、今までの経験上、「海のごみの8割は街からきている」と教えても、どうしても「海のごみは他の誰かがポイ捨てしている」という固定観念が抜けないということを感じたため、その部分を絵本を使って正しく理解してもらえつくりをしたいと考えている。また、堅苦しくならないよう、家に持ち帰って人に見せたいようなインパクトのあるストーリーを考えている。
委員	絵本の制作を依頼する方や大まかな装丁も決まっているということか。
団体	概ね決定している。
委員	配布型のものになるのか。
団体	冊子印刷にすると1冊当たりの費用もそこまでかからないため、冊子で作成・配布してきょうだいで一緒に読めるようなものを想定している。
委員	予定では5月から7月で授業を実施する学校もあるため、その際に配布するとなるとスケジュール的にもあまり時間がないと思うが。
団体	今回の申請が通らなければ本の制作を進めることはできないが、制作を依頼する方とは内容を詰めているところである。初めに授業を行う学校については製本が間に合うかわからないができる限り急ぎ作成しようと考えている。もし間に合わない場合は絵を紙芝居型で説明し、印刷で次第配布する形で検討している。
委員	レジンを使用してプラごみのキーホルダーを作成されるということだが、可能であれば、レジン部分もプラごみ等をリサイクルした素材など

団体	を使用されると全体的なストーリーとしてよいと思った。製作したキーホルダーが捨てられてしまい、それ自体もごみになってしまっは本末転倒になると感じた。 団体としても拾ったごみやペットボトルキャップを活用できないか検討したが、レジンの透明部分の可愛さがあることで子どもたちが大事にしてくれるところがあるため、それを考えると現状はレジンを使用する方向である。ただ、いつかは透明部分もリサイクル素材でできればと考えており、具体的にはイベントで使用されるプラスチックのカップ等を活用できないか試行錯誤しているところではあるが、なかなか難しい。
----	---

4 福岡看護大学ボランティア部

発言者	発言内容
委員	新入部員はどのくらいか。
団体	1年生が1名入った。現在は全体で16名で活動している。現在も新入部員を募集しているところである。
委員	折角なので部員が増えると良いと思う。大学生が主体となって環境に関する活動を行うことに意義があるため、地域などに向けて様々な企画を行うことも良いが、まずは学生を増やす努力をしてほしいと思う。
団体	今回、学内放送での呼びかけを行ったりポスターを貼り出したりして、ボランティア部の活動の周知を行っていく予定である。また、ボランティア部以外の学生有志を募集したり、文化祭のギャラリーを活用して部員を募集したりすることも考えている。
委員	シンポジウムはどういった方を対象に実施するのか。
団体	公民館と地域住民の方を集めて、活動の成果発表と今後の活動について一緒に考えていくものになる。
委員	一緒にペットボトル回収を行う小学校の生徒にも事前に呼びかけを行うのか。
団体	昨年度も小学校と中学校で1名ずつ発表者としてスライド作成などに参加してもらい、地域住民の方々の前で一緒に発表を行ったため、今年度も同様に行う予定である。
委員	昨年度の参加者は何名だったのか。
団体	昨年度は50名程度の参加があった。

委員	小学生に対して、自分たちが集めたペットボトルキャップがどう活用されたのかが分かるような仕組みにするとよいと思う。
団体	前年度地域の方々から、回収したペットボトルキャップが何に使われたかわからないというご意見があった。そのため、今年度は小学生、中学生とともに、回収量と回収したものの活用用途を示すようにしていきたいと思う。
委員	小学生、中学生をもっと巻き込みながら活動を進めていってほしい。
委員	ワークショップやシンポジウムによる意識の変化など効果測定を行うアンケートなどは行っているか。
団体	今年度、ワークショップやシンポジウムを受けた後にどのような意識の変化があったかはアンケートを取って測ろうと考えている。

5 NPO法人博多ミツバチプロジェクト

発言者	発言内容
委員	イベント参加者はどのように集める予定なのか。
団体	SNSや市政だよりを活用して募集する予定である。
委員	市民の方は関心を持たれているのか。
団体	2021年のNPO立ち上げから現在まで延べ300名の方が博多区住吉の養蜂場に来ていただいたが、ミツバチへの関心度は非常に高いと思っている。ミツバチの生態系の説明を聞き、採れた蜜を見ると参加者は大変喜ばれ、そういった経験を踏まえると参加者目標の累計120名も達成できると考えている。
委員	小学生から高齢者まで幅広い関心があるとあるが、高校生はあまり関心がないなど、世代における関心の差はあるか。また、実施曜日は何か工夫されているのか。
団体	実施曜日は土日を検討していたが、日曜日の参加が一番良いということが分かった。土曜日は大人の方はお仕事があったり、高校生は補講があったりするので日曜日が最適であると考えている。世代間の参加については、先日採蜜会を実施際に小学校一年生から81歳が参加した。また、現在大濠高校と福岡女子高校に巣箱を設置し部活として一緒に活動しているが、高校生の興味は非常に高い。
委員	大学生は日曜日になるとあまり参加しないのではないか。

団体	大学生は福岡大学ボランティアサークル愛好会と一緒に活動しているが、大学生は勉強やアルバイトなど忙しいため、全世代がまんべんなく参加するというのは難しいが、一つの世代に参加者を限定するのではなく、子どもも高齢者も一緒に参加するということに意味があると感じている。
委員	個人的には子どもとも高齢者とも話ができる大学生が、いるのといないのとではかなり違うと思っている。そのため、日曜日に参加できる学生を増やしていくとより良いと思う。
委員	福岡で活動を行おうと思ったきっかけは何か。
団体	元々ミツバチに興味があったわけではなかったが、住吉に店舗を持っており、その改装を行った業者から養蜂の勧めがあった。加えて博多で日本ミツバチを育てるのも珍しく面白いと思い、始めたが、生態系等を調べていくうちに没頭し、さらに環境への気づきなどもあったことからNPO立ち上げに至った。都市部におけるミツバチのプロジェクトは西洋ミツバチを取り扱うことが多いが、人がやっていないことをしたいと思い、在来種で希少な日本ミツバチの養蜂を行っている。
委員	5月のイベントの参加者は何名だったのか。
団体	関係者を除き16名である。内訳としては親子連れが3組、あとは大人の方であった。

6 宗像CSR推進実行委員会

発言者	発言内容
委員	企業からの協賛や協力はどの程度あるのか。
団体	協賛金はもらっていない。講師を派遣してもらったり、以前は学生が釜山から日本に来るための渡航費をかなり安くしてもらったりしていた。
委員	日韓で事業を行われてきた中で、学生たちの意識に何か変化はあったか。
団体	当初は反日意識があったが、それも段々薄まり、韓国の大学生は日本のアニメ、日本の高校生はK-POPといったお互いの関心がありフレンドリーに交流している。
委員	一緒に絵本を作成されるということだが、交流の中でいろいろなアイデアや相乗効果が生まれそうか。
団体	宗像市のキャラクターのデザインを行ったイラストレーターの方も一緒

	に絵本製作に携わってもらうが、テンちゃんが韓国の中でも少し有名な ようなので、それも踏まえいい絵本が制作できていると思っている。
委員	団体名にもC S Rとある通り、企業との連携はあるのか。
団体	補助金としてのつながりはあるが、密に連携しているのは一部である。
委員	事業者も環境への取り組みを行わなければいけないため、そういった事 業者等も巻き込みながら活動を行っていくとさらに広がりができていく と思う。
委員	日韓の学生で海岸清掃を行うとあるが、韓国の学生が日本に来るとい うことか。
団体	今年度は韓国側の大学が渡航のための予算があるようで、来日に関し ての段取りはできている。